

次期都市計画マスタープラン素案への意見交換会 議事概要

1. 目的 : 昨年度に実施した意見交換会に参加した学生及び転勤者を対象に、素案段階において意見聴取し、本方針へ反映させることを目的とする。
2. 参加者 : ①平成31年度実施の学生ワークショップに参加した市内大学生 : 13名
②平成31年度実施の転勤者意見交換会の参加者〔ONE TOHOKU〕 : 12名
3. 日時 : ①令和2年8月17日(月)～19日(水) 16:00～17:00
②令和2年8月20日(木)～21日(金) 19:00～20:00
4. 実施方法 : WEB会議システムによるリモート会議
5. 意見概要

発言者	分類	内容
大学生	都心	・都心は何でもあるが、 <u>目的が無ければ行かない街</u> でもある。 <u>ただ歩いているだけでも楽しい街</u> (目新しいものばかりでなく、街路樹や休める場所が多い)になれば、特に <u>目的もなく街に出る機会が増える。</u>
		・学生ワークショップでは仙台駅西口ばかりに目が行っていたが、 <u>東口と繋ぐことは良いと思う。</u>
	協働	・郊外には都心にはない魅力が多くあり、SNSによる継続的な魅力の発信が、 <u>都心の魅力と併せ仙台市全体の向上につながる。</u>
		・仙台市は、多くの学校があるのも強み。 <u>大学生・高校生など若い力を使って活性化できればよい。</u>
	その他	・コロナ禍により、地方でも働くことができる環境ができつつあり、 <u>東京で働く意味が薄くなってきている。</u> これは仙台市へ人を呼び込むチャンスである。
		・素案やホームページのイラスト等については、 <u>都市計画が分からない人でも一目で伝わるよう見せ方に工夫がほしい。</u>
転勤者	働く	・リモートワークにより、人対人のつながりが希薄となっており、 <u>コワーキングスペース等の人をつなぐ場のニーズが増えている。</u>
	暮らし	・ <u>仙台市は住環境が良いという利点をアピールできれば他都市との差別化を図れる。</u>
		・子育てについては、ハードとソフトのバランスが必要、以前東京にも在住していたが、 <u>仙台市は公園が近くにあるなど、そもそも子育てがしやすい街</u> である。
	協働	・公共空間の利用の規制緩和などの <u>新たな取り組みを進める</u> ことは、30代や40代のこれから挑戦しようとする人の共感を得られる。
		・ <u>まちづくりに携わりたいという学生は多くいるが、きっかけがない。</u> これからは若い力が地方を盛り上げる。仙台市から市内の小中高生や各大学へ都市計画について考える機会を設けてほしい。
	その他	・今までは「東京＝華やか」という考えで、 <u>都会に就職する人が多かったが、コロナの影響で流れが変わってきている</u> ように感じる。学生時代を仙台で過ごし、 <u>居心地がよい街</u> だと感じて仙台へ戻りたいという声を多く聞いている。
・素案からは、 <u>未来志向であることが感じられ、先進的な街をつくっていく</u> ということが分かった。		